

対話を通して自分の考えを深めることを目指して

～第6学年 国語科 「この絵、わたしはこう見る」の実践を通して～

柏崎市立大洲小学校 小林 麻衣

1 目指す子どもの姿

子どもたちは、確実に答えのあるものについては自信をもって挙手・発言する姿が見られる。しかし、自分の考えの発表となると、自信をもてずに発言することを恥ずかしがる傾向があった。これまで国語やその他の教科で、討論やスピーチの機会をもったり、話し合いのスキルを学習したりすることにより、自分の思いや考えを表現することに対する抵抗感は少なくなってきた。また、話し合いは司会を中心に意見の交流をすることができるようになってきた。しかし、互いの考えを伝え合うことにより、さらに自分の考えを深めるというところまでは至っていない。

そこで、対話を取り入れた授業づくりを進めることで、互いの考えを伝え合いながら学び合うことが楽しいと感じ、対話が自分の考えの変容につながる学び合いの姿を期待して実践に取り組んだ。

2 実践の概要

(1) 単元名

「この絵、私はこう見る」(全6時間)

(2) 単元の目標

- 絵や芸術作品から感じたことについて書くことを決め、事実と感想・意見などを区別して事柄を整理して書くことができる。
- 絵や芸術作品を伝える文章の見方・感じ方のよさ、文章表現の良い点、改善点に着目して話し合うことができる。

(3) 単元の構想

本単元では、絵画を見て感じたことの中から書くことを決め、絵から読み取ったことや感じたことを文章に書く単元である。提示された観点を基に絵画を見て、自分が絵画のどの点に何を感じ、どのように意味づけたのか自らの感じ方やものの見方を文章で表現することを求めている。自分の感じ方やものの見方を友達と発表し合い、自分では思いつかなかった感じ方や見方を知ること、自分の作品に対する見方を広げることができる。そして、広がった自分の考えを自分なりに整理することで作品に対する自分の考えを深めることができると考えられる。そこで、友達と相互交流しながら表現を工夫して文章に書き表すことができるように以下の手立てを講じた。

①自分の考えや意見を形成するための付せん紙の活用

絵をよく観察し、提示された観点について読み取ったことや感じたことを各自付せん紙に記入する。そして、「どうして～なんだろう」という問いを立て、その答えを予想する学習を行う。この時間をしっかり設定することで、自分の考えを明確にし、自信をもって意見を言うことができると考えられる。それを聞く児童も付せん紙と発表の両方で友達の意見を理解することができ、話し合いの手掛かりになると考えられる。

②意見を整理するためのホワイトボードの活用

単元を通し、友達の意見や自分の意見を整理する場を設定する。その際、ホワイトボードを活用することとする。読み取ったことや感じたことを書いた付せん紙をホワイトボードにはり、自分では気付かなかった点から絵画に対する自分の見方を広げることが期待される。その後、立てた問いについて自分の考えを発表し、友達と意見交換しながらその解釈をホワイトボードにまとめていく。ホワイトボードを活用することで、自分や友達の共通点や相違点が目に見えて分かり、作品に対する自分の考えを整理したり、考えを深めたりする手がかりになると考えられる。また、文章を記述する際、ホワイトボードにまとめた内容を振り返りながら書くことで、伝えたいことを効果的に表現する手立てになると考えられる。

③話し合いを振り返り、考えの変容を自覚する時間の設定

これまで、国語の授業だけでなく、他教科の学習においても友達との対話を取り入れ、その後振り返る時間を取った。グループでの対話を通して、以前にはなかった新たな考えや情報が獲得されたことを自分で認識できるようになってきている。本単元においても友達の意見を聞いて、新しく知ったこと、見方が広がったことや深まったこと、考えが変容したことを振り返る時間を設定し、自分が学んだことを自覚できるようにしていく。

